

平成27年度第3回 小平市環境審議会 会議要録

1 日 時

平成27年12月15日（火） 午前10時～正午

2 場 所

小平市健康センター 第2・3会議室

3 出席者

○小平市環境審議会委員 12名

奥真美会長、細江卓朗副会長、石井佑委員、泉慎一委員、栗原道彦委員、
柴尾裕美委員、猪熊勇一委員、小川泉委員、内藤雅夫委員、市川徹委員、
中島裕輔委員、金子亨委員

○事務局 12名

環境部長、環境政策課長、環境政策課長補佐、環境政策課主任、環境政策課主事、
資源循環課長、資源循環課長補佐、水と緑と公園課長、水と緑と公園課長補佐、
下水道課長、下水道課長補佐、下水道課計画担当係長

4 傍聴者

1人

5 議 題

- (1) 小平市地域エネルギービジョンの見直しについて
- (2) 小平市下水道プラン後期計画の見直しについて
- (3) 小平市リサイクルセンター整備基本計画素案について

6 配付資料

- ・小平市地域エネルギービジョン中間見直し（中間のまとめ）について（資料1-①）
- ・小平市地域エネルギービジョン中間見直し（中間のまとめ）（資料1-②）
- ・小平市下水道プラン後期計画の見直し素案の概要について（資料2-①）
- ・小平市下水道プラン 前期計画の評価と後期計画の方向性（資料2-②）
- ・小平市下水道プラン～快適な生活環境を支える下水道～後期計画（素案）（資料2-③）
- ・小平市リサイクルセンター整備基本計画（素案）（概要版）
- ・小平市リサイクルセンター整備基本計画（素案）

7 主な意見

（小平市地域エネルギービジョンの見直しについて）

- ・学校給食の地場産農産物の納入率について、より高い数値目標の設定を検討してほしい。

- ・小平市の部門別エネルギー消費量の推移について、家庭部門の増加がみられるとの表現があるが、基準年度と比較すると減少しているため、適切な表現方法にするべきである。
- ・小平市の部門別エネルギー消費量の推移について、業務部門の増加要因を小平市の実態に合わせて分析し、今後の市の施策に反映することが望ましい。
- ・今後の地域エネルギービジョンにおいては、自立分散型エネルギーの構築等の地域対策も講じていくべきである。現在進めている太陽光発電の導入はその足掛かりとなる。
- ・環境家計簿の推進について、成果指標を環境家計簿への参加件数としているが、エネルギー消費量や二酸化炭素排出量の削減量などの効果面も表現した方がPRになる。
- ・環境学習の充実は、あらゆる取組に関わってくる重要なキーである。小学生の頃から家庭での環境家計簿の取組を定着させるなどの連携が図られるとよい。
- ・バイオマスの利用による発電や熱利用及び堆肥化については、プロジェクトの達成状況を図る適切な指標について検討されたい。
- ・バイオマスの利用による発電や熱利用及び堆肥化については、生ごみの堆肥化など、市民参加を積極的に推し進めるようなPRを今まで以上にされたい。
- ・緑のカーテンや太陽光発電システムの導入など、公共施設を対象にしたプロジェクトについて、施設全体の数に対して目標値をどのように設定したのかを明らかにした方が分かりやすい。
- ・公共施設への太陽光発電システムの導入については、設置数のみではなく、累計の出力を併記することで導入状況がより分かりやすくなる。
- ・室内の温度設定の徹底を一人ひとりが取り組むことで大きな効果が得られるので、積極的にPRをするべきである。
- ・ノーカーデーの実施について、市全体で取り組んでいけるような具体策がほしい。
- ・廃食油について、小平市での活用の可能性を研究されることを期待する。
- ・環境学習などさまざまな年代への働きかけがある中で、高校生への働きかけについても検討するべきである。

(小平市下水道プランの見直しについて)

- ・雨水の利用（雨水貯留）について、商店街や家庭などでも取り組めるような施策も講じていくべきである。
- ・雨水浸透について、下水道の所管とは異なる部分もあると思われるが、各所管が連携することで全体の効果が表れてくるので、全体についてわかりやすい説明をお願いしたい。

(小平市リサイクルセンター整備基本計画素案について)

- ・環境設備の導入と同時に、建物の作り方の工夫で空調コストなどが軽減できるので、今後進めていくにあたり、仕様の中に建物自体の環境性能についての配慮を盛り込んでいくべきである。